

NEWS LETTER

2016年 12月 22日 No. 573

三重大学教職員組合発行

直通：059-231-4447（内線 2169）

Email：KYF03351@nifty.ne.jp

URL：http://homepage2.nifty.com/mie-union/

教育・研究・勤務条件の現状 — 全大教アンケートを受けて —

0. 全大教「教員の研究・教育・勤務条件改善に関するアンケート」とは

全大教（全国大学高専教職員組合）では、4年に一度、国公立大学・大学共同利用機関・高専の教員に対し、標題のアンケート調査を行っています。この調査は教員の研究・教育環境や勤務条件の実情を把握し、その改善をはかることを目的としたものです。今回は2016年5月～7月にこの調査が実施されました。三重大学からは、69名の方が参加して下さいました。質問紙は、以下のURLで見ることができます。

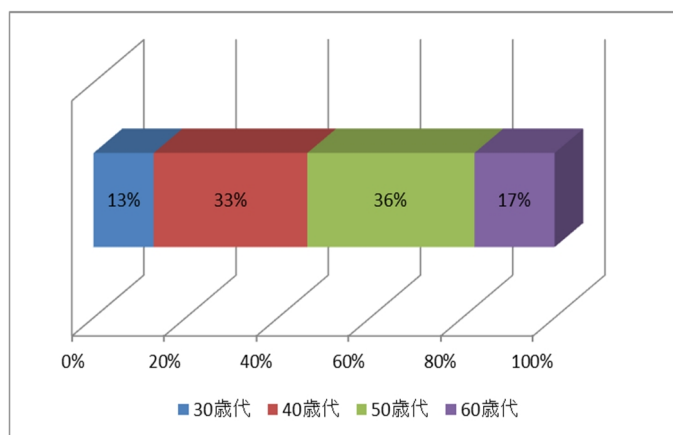
(https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScGU7LVJQqW00Cpq4wKo2lUp6QODQ_KQkQsex4eaT9lsRKSsg/viewform)

本号では、このアンケートの三重大学分を分析・総括し、我々の教育研究・勤務の実態を明らかにします。

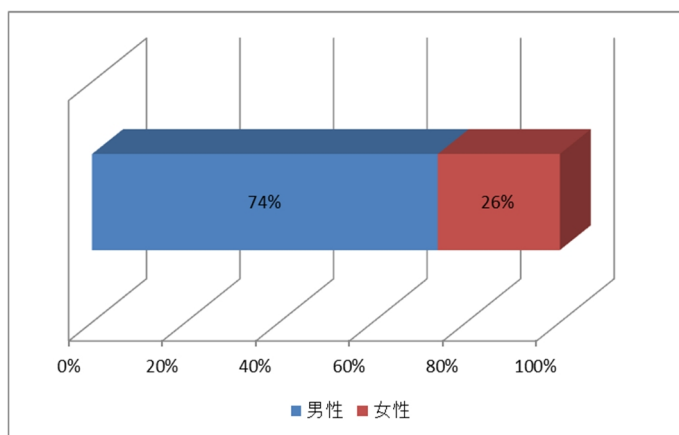
1. アンケート回答者に関して

アンケート参加者69名の「年齢構成」「性別」「職名」「領域」は以下の通りです。

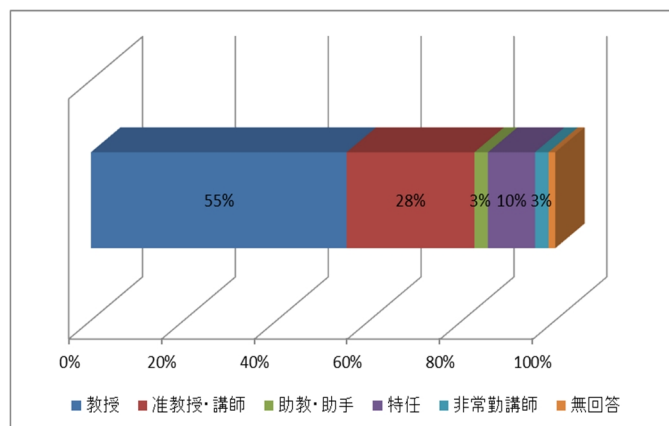
1-1. 年齢構成



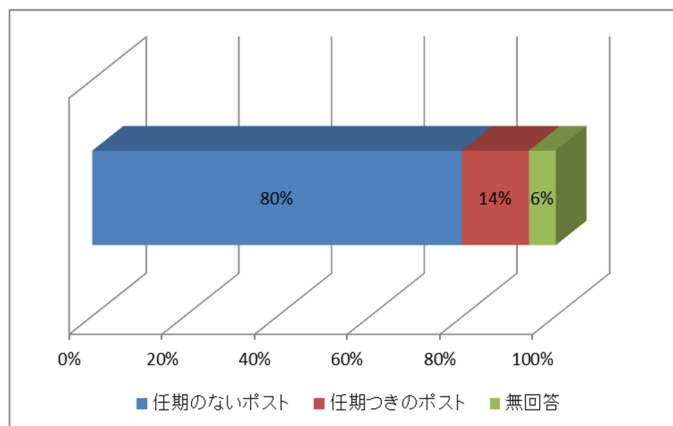
1-2. 性別



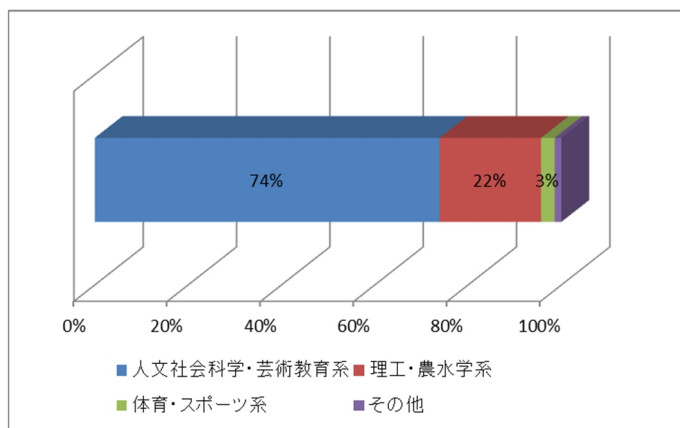
1-5. 職名



1-6. 任期の有無



1-7. 領域



ひとつこと

(以下、この枠内に「ひとつこと」記します。)

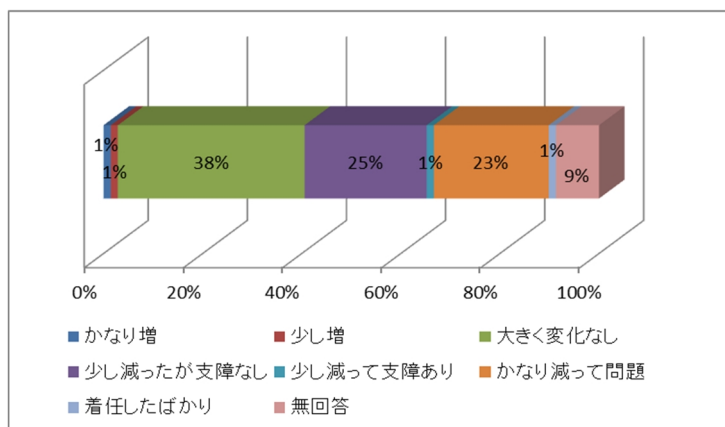
アンケートは、全国規模で行われたものです。後に全大教からその結果が公表されます。その際、全国の大学と比べた三重大学の特色が掴めます。特に、非正規雇用、任期付の職種が増えることには、今後注視していく必要があるでしょう。

2. 研究教育費に関して

「2」は研究教育費に関する質問でした。選択肢と結果は以下の通りです。

2-1. 「過去4年間、研究教育費はどう変化したか」(基盤的経費である校費のみ、競争的経費、外部資金を除く)

- ・かなり増えた
- ・少し増えた
- ・大きな変化はない
- ・少し減ったが研究・教育に支障はない
- ・かなり減っており校費だけでは必要な研究・教育が行えない



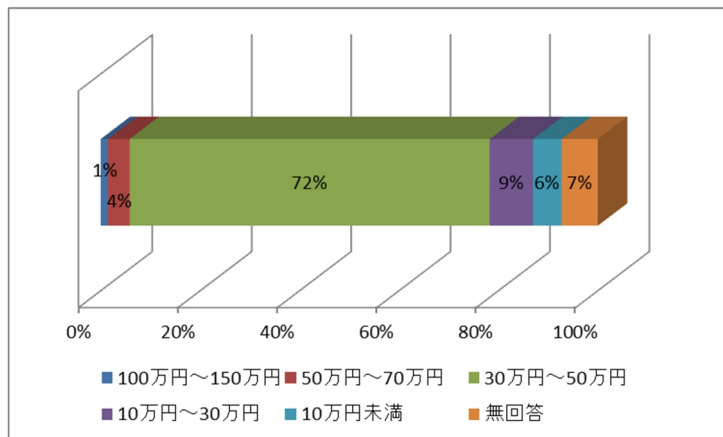
研究教育費が増加した人は「僅か2%」という実態があります。

半数の人が研究教育費は「減少した」と回答しています。さらに全体の24%の人が、「研究・教育に支障が出てきている」と回答しています。

研究教育費については、極めて厳しい実態が浮き彫りになりました。

2-2. 「昨年の校費は、年間で幾らくらいか」(当初予算・補正予算・大学院教育経費などすべて含む)

- ・200万円以上
- ・150万円以上200万円未満
- ・100万円以上150万円未満
- ・70万円以上100万円未満
- ・50万円以上70万円未満
- ・30万円以上50万円未満
- ・10万円以上30万円未満
- ・10万円未満



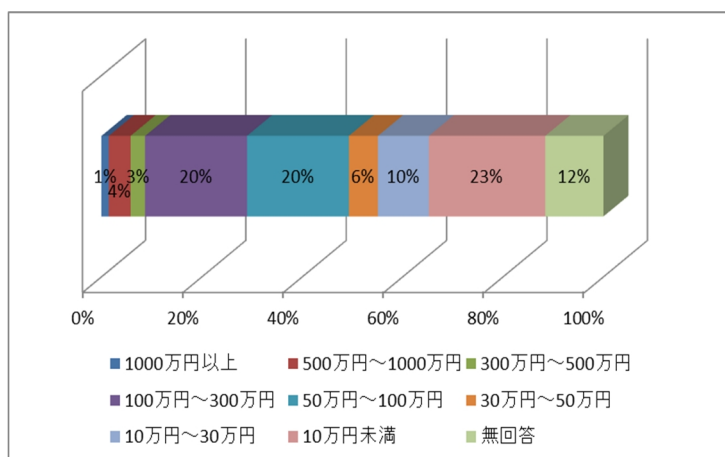
「200 万円以上」「150 万円以上 200 万円未満」「70 万円以上 100 万円未満」と、高い値の回答者はいませんでした。

最頻値の階級は「30 万円以上 50 万円未満」で、72%と圧倒的です。

経費を切り詰めて研究することを余儀なくされている実態が分かります。

2-3. 「科学研究費など（外部資金、COE, GP, 学長裁量経費）、過去 4 年で獲得した研究教育費は、年平均で幾らくらか」

- ・ 1000 万円以上
- ・ 300 万円以上 500 万円未満
- ・ 50 万円以上 100 万円未満
- ・ 10 万円以上 30 万円未満
- ・ 500 万円以上 1000 万円未満
- ・ 100 万円以上 300 万円未満
- ・ 30 万円以上 50 万円未満
- ・ 10 万円未満

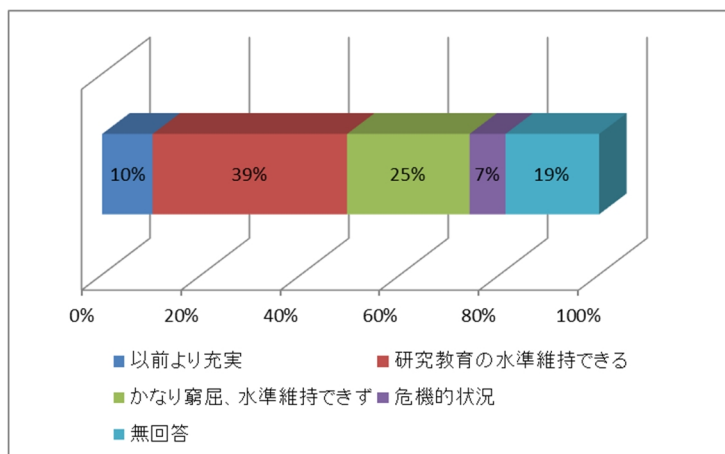


校費の厳しい状況を反映して、約半数の人が、50 万円以上の外部資金等を獲得して研究をしています。

また、何らかの外部資金を得ている人は、全体の 90%にも上ることが分かりました。

2-4. 「過去 4 年ほどの、競争的資金、外部資金を含め研究教育経費の変化をどのように受けとめるか」

- ・ 科研費などの増加によって研究教育が以前より充実してきた
- ・ 現在でも、それなりに研究教育の水準は維持できる状態だ
- ・ かなり窮屈になっており、以前の水準は維持できない状態だ
- ・ 研究教育は危機的状況であり、新規の研究プロジェクトを計画できない状態だ

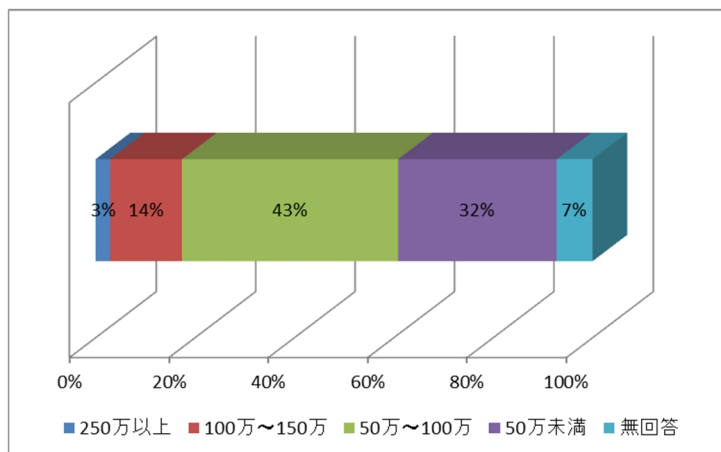


近年の競争的資金外部資金等の研究教育費の変化により、「研究教育が以前より充実してきた」と答えた方は 10%に留まっています。一方で、研究水準の維持に支障をきたしたり、危機的状況になっていると回答した人は 32%もいます。

産学連携等で、お金を産む研究の資金獲得は比較的容易な反面、資金獲得が困難な基礎研究等の衰弱が懸念されます。

2-5. 「必要な研究教育費の年額は幾らくらいか」(基盤的経費である校費のみ。競争的経費，外部資金を除く)

- ・ 250 万以上
- ・ 200 万～250 万程度
- ・ 150 万～200 万程度
- ・ 100 万～150 万程度
- ・ 50 万～100 万程度
- ・ 50 万未満



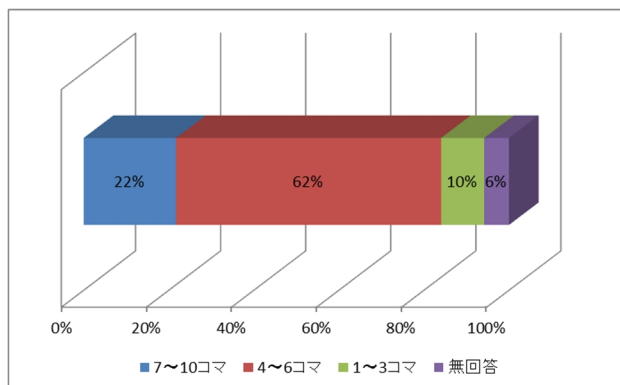
50 万円以上の校費が必要と答えた人は 60%に上ります。

「2-2」の設問で、87%の人が50万円未満しか校費の交付を受けていないことと比べてみると、研究教育費の著しい不足実態が明らかとなっています。

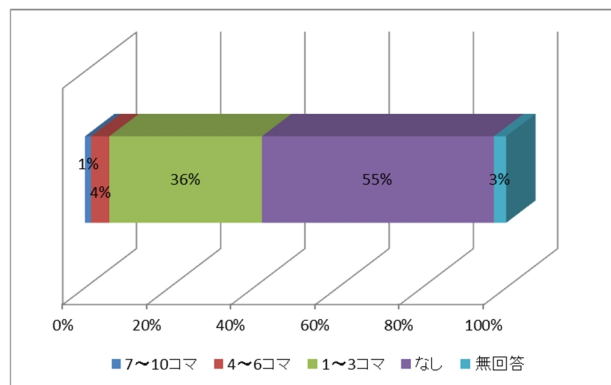
3. 担当の授業に関して

「3」は担当の授業に関する質問です。

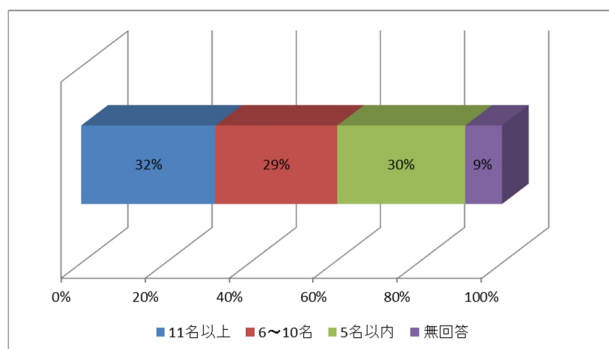
3-1. 担当の講義 ゼミ 実験 論文指導等、週何コマか」
(前期後期でかなり違う場合はその中間値)



3-2. 「受講生 100 人超の大講義は、週 何コマか」



3-3. 「研究室で指導している学生数は何人か」
(学部・大学院合わせて)

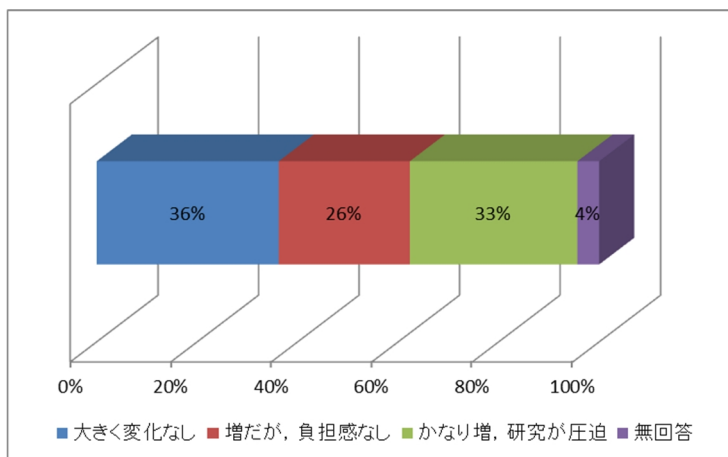


「3-1」～「3-3」に対しては、後に全大教のアンケート結果が公開された際、三重大学の授業の状況を全国の大学等と比べて頂ければと思います。

授業担当にある程度のゆとりがあり、研究との両立が図れる状況になっていなければなりません。

3-4 「授業負担はどう変化してきたか」

- ・ 以前とそれほど大きくは変化していない
- ・ 次第に増えてきてはいるが、それほど負担感はない
- ・ かなり増えてきており、研究時間が圧迫されている
- ・ 激増しており、研究者としてのアイデンティティが危機に瀕している



59%の人が、近年「授業負担が増えている」と回答しています。しかし、全体の 26%の人が、「負担は増加しているものの負担を感じていない」とのことです。

一方、3分の1にあたる 33%の人が、「授業負担が増えており、研究時間が圧迫されている」と回答しています。

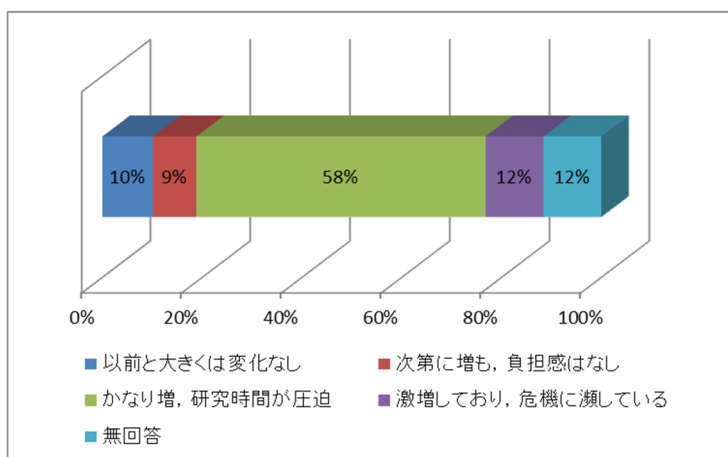
教育と研究の両立を担保する上での、厳しい実態が見て取れます。

4. 学内実務・社会貢献活動に関して

「4」は学内実務・社会貢献活動に担関する質問です。

4-1. 会議や書類作成（評価、外部資金等の書類作成）、研究教育以外の公務（高校・企業回り等）などは、どう変化してきたか

- ・ 以前とそれほど大きくは変化していない
- ・ 次第に増えてはいるが、それほど負担感はない
- ・ かなり増えてきており、研究時間が圧迫されている
- ・ 激増しており、研究者としてのアイデンティティが危機に瀕している

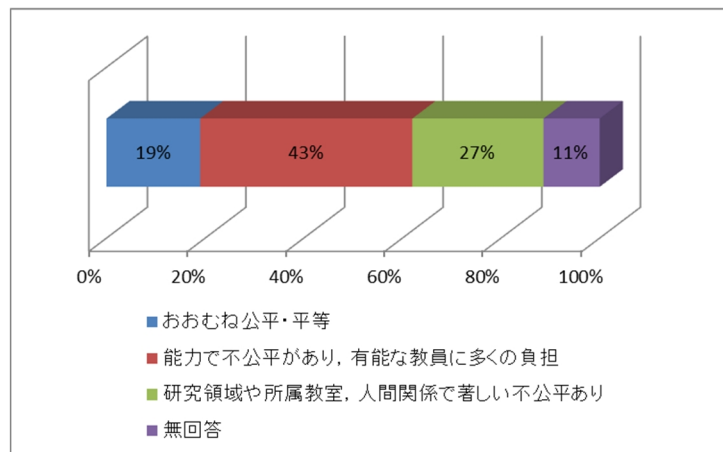


79%の人が、教育研究に直接の関係の無い業務が「増えている」と回答しています。全体の 70%の人が、こうした「雑務」に研究時間が「圧迫されている」と回答しています。

「大学改革」や「地域貢献」と、聞こえの良いスローガン。これにより学内実務や貢献活動に傾注することが強いられ、管理体制が強められ、肝心の自由な教育研究が圧迫されているとしたら、本末転倒です。

4-2 「実務や学外活動の分担は公平に行われているか」（複数回答可）

- ・ おおむね公平・平等に振り分けられている
- ・ 能力によって著しい不公平があり、有能な教員に多くの負担が強いられている
- ・ 研究領域や所属教室、人間関係によって著しい不公平がある



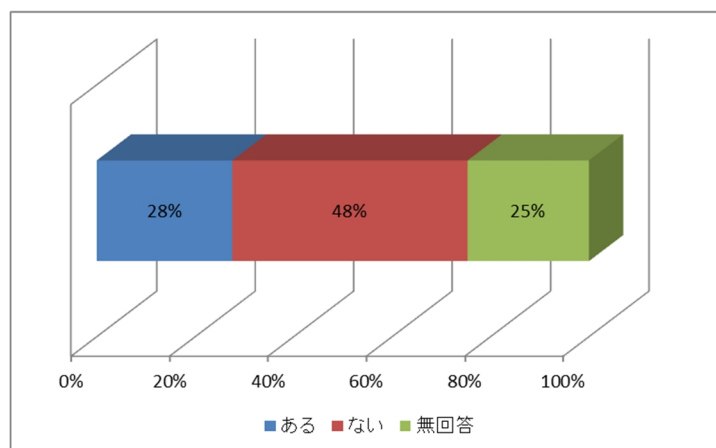
学内実務や貢献活動に対し、70%の人が不公平感を持っています。納得して働ける職場環境の整備が望まれます。

5. サバティカルリープ（研究専念休暇）に関して

「5」はサバティカルリープ（研究専念休暇）に関する質問です。

5-1. 「あなたの所属する大学・機関・高専にサバティカルリープの制度はあるか」

- ・ ある
- ・ ない



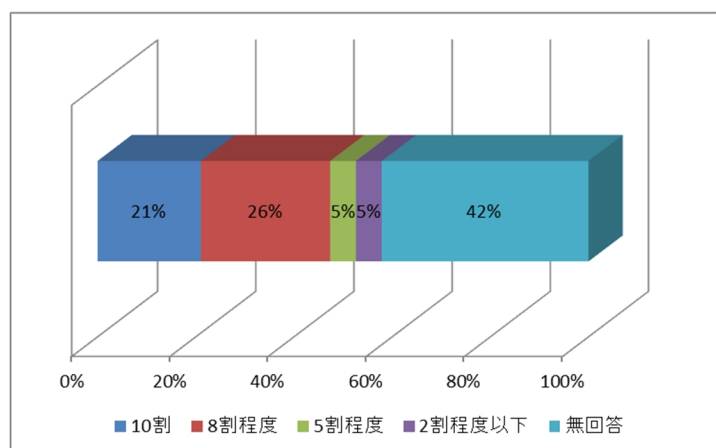
三重大学では、「サバティカル制度に関する規程」（平成 18 年 5 月 25 日規程、26 年 3 月 27 日改正）により、「サバティカルリープ」の取得が可能となっています。しかし、約半数の 48%の人がサバティカルリープは「ない」と答えています。制度自体が知られていないか、その存在を知りながら、実質上「ない」と感じておられるのでしょうか。

いずれにせよ、私たちの権利なので、周知をする必要があります。

5-2. 5-1 の設問に「ある」と答えた方への質問.

「サバティカルリープを取った場合、給与・研究費はどの程度保証されるか」

- ・ 10 割
- ・ 8 割程度
- ・ 5 割程度
- ・ 2 割程度以下



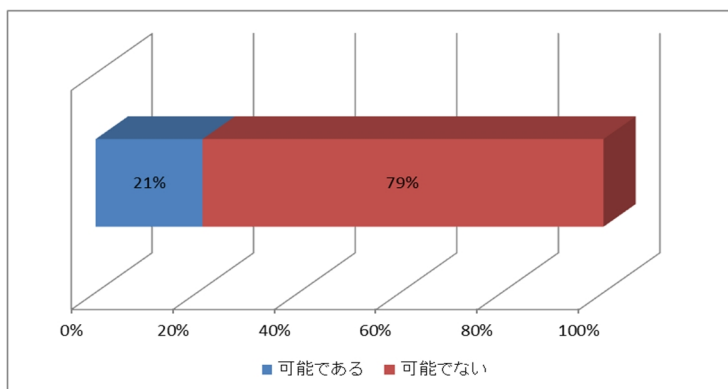
「5-1」でサバティカルリープが「ある」と答えた人のうち、42%の人がその保障率について「無回答」です。給与・研究費の保障についての具体的な運用についてご存知ないということだと考えられます。

この制度の周知の必要性を痛感します。

5-3 5-1 の設問に「ある」と答えた方に質問。

「サバティカルリープを実際に取りすることは可能か」

- ・可能である
- ・可能でない

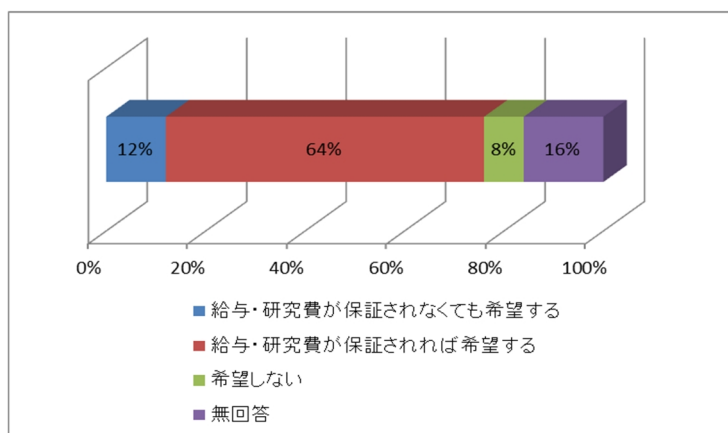


「5-1」でサバティカルリープが「ある」と答えた人のうち、約8割の79%の人が「実際に取ることができない」と答えています。制度は、実質上形骸化していることが分かります。

5-4 5-1 の設問に「ない」と答えた方に質問。

「もしサバティカルリープ制度ができればサバティカルリープを取ることを希望しますか」

- ・給与・研究費が保証されなくても希望する
- ・給与・研究費が保証されれば希望する
- ・希望しない



「5-1」でサバティカルリープが「ない」と答えた人のうち、給与・研究費の保障の有無にかかわらず、76%の人が「取ることを希望する」と回答しています。

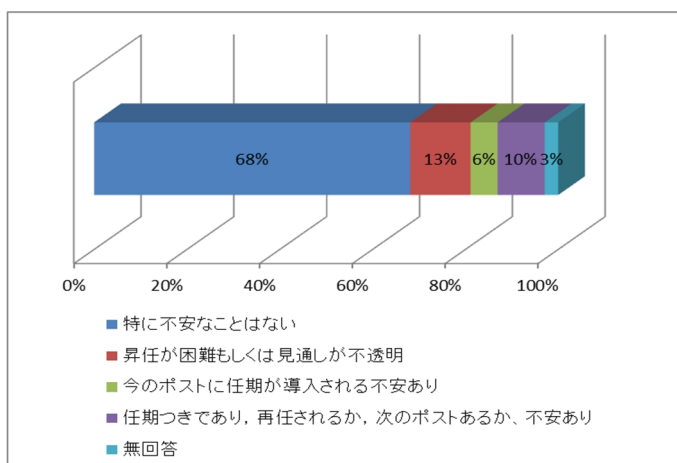
この制度を周知し、もっと利用しやすいものにするのが求められます。

6. 教員の身分保障・健康に関して

「6」は教員の身分保障・健康に関する質問でした。選択肢と結果は以下の通りです。

6-1. 「以下の項目の中でご自身に関わる問題で最も切実なものはどれですか」

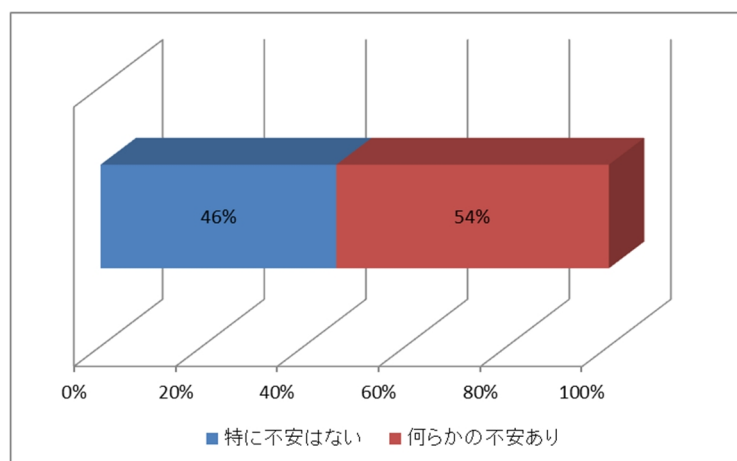
- ・昇任が困難もしくは見通しが不透明である
- ・現在のポストに任期が導入されるかもしれないという不安がある
- ・任期付きのポストなので、再任されるか、次のポストが見つかるか、などの不安がある
- ・身分保障上、特に不安なことはない



昇任、任期について、29%の人が「不安」を訴えています。競争原理や、成果主義の導入が、身分保障に対する不安を助長しているように思われます。

どの職種の人でも、安心して働ける職場づくりを目指さなければなりません。

6-2-1. 「メンタルヘルスについて、不安があるか」



過半数の 54%の人が、メンタルヘルスに関して不安を抱えている実態があります。極めて多な数字といえます。

6-2-1. 「以下のメンタルヘルスの不安で該当するものは何か」（複数回答可）

不安の状態	回答者 69 名に対する百分率
多忙・研究環境・人間関係などについてストレスを感じていて、不眠・イライラ・食欲不振（もしくは過多）等のメンタルヘルス上の不安を抱えている	26%
高血圧、脳梗塞、心筋梗塞などの不安がある（もしくは過去にこうした症状で入院や通院したことがある）	16%
うつ病になるのではないかと不安がある（もしくは「うつ」と診断されたことがある）	10%
過去 4 年の間に、睡眠導入剤、精神安定剤などを服用したことがある（もしくは現在も服用している）	7%

7. 特に問題と感ずること

7. 「特に問題と感ずていることは何か」（1 人あたり 3 項目以内で選択回答 69 名に対し 回答は 182）

問題の項目	回答者 69 名に対する百分率
人件費削減による教員不補充	59%
評価作業、会議等による「多忙化」・ゆとりがない	58%
基盤的経費の削減	49%
給与水準が低い	32%
過度の競争的経費導入や「多忙化」による教員の連帯意識の希薄化	29%
任期制による身分の不安定化	10%
研究教育条件や地域手当等による給与格差等の大学間格差及び任期制導入などを要因として人材確保が困難	9%
学長選考など自治をめぐる問題	7%
「心身」の健康不安	6%
恣意的評価	3%
「パワハラ」「セクハラ」	1%

「6-2-1」では、多忙・研究環境・人間関係からくる不眠等メンタルヘルス上の不安を抱えている人が 26% もあり、最も多い選択肢でした。続いて、高血圧などの疾患、うつ病等の心病等への不安を抱えている人がおられます。「7」では、人件費削減による人減らし、学内実務の多忙化、基盤経費の削減を問題としている人が多数おられました。